

二一世紀になるまでの過去千数百年間、日本の人口は順調に増加して約六〇〇万人から一億二八〇〇万人に到達したが、そこから減少に転換し、このまま推移していけば二五年後の二〇五〇年には九七〇〇万人程度になると推定されている。最大の時点の七五％である。それ以後の未来は明確ではないが、二一〇〇年には四八〇〇万人になるという数字もある。

総数の減少以外の人口問題もある。第一は高齢人口の増大で、二〇〇五年には全体の二〇％の二六〇〇万人程度であった六五歳以上の人口は二〇五〇年には四〇％の三八〇〇万人程度になる。第二は日本列島全体の一部に人口が集中する現象で、都道府県単位で昨年に増加したのは東京と埼玉だけで、それ以外は減少であった。

これらは社会に深刻な問題をもたらす。ある研究機関の今後の日本の労働人口需給の推定によると、二〇三〇年には三四〇万人、二〇四〇年には一一〇〇万人の不足が発生するという結論である。二〇四〇年には一五歳から六四歳までの生産年齢人口は六二〇〇万人と予測されているから、その一八％に相当する不足である。

人口を国力の基礎とすれば対策が必要である。第一は出生率の増加であるが、従来の対策では顕著な効果はない。第二の対策が外部からの移民である。昨年の時点で国内に九〇日以上滞在する在留外国人は三七七万人で人口全体の三％であったが、この比率は世界の一〇〇位以下であり、日本は移民の視点からは後進国家である。

移民増加については賛否両論があるが、日本で移民の比率が最多である群馬県大泉町は四万一六五〇人の人口のうち二二％の約九〇九〇人、すなわち四・六人に一人が移民である。日本全体の移民の比率が三％であることと比較すると突出した数字であることが理解できるが、従来の日本には存在しなかった社会を構築しつつある。

静岡県浜松市も類似の状況である。二輪車、自動車、楽器などを製造する企業が次々と立地していたが、一九八〇年代の景気上昇で業績が拡大し、不足する工員を海外から補充するようになった。当初は全体で一万人弱の雇用であったが現在では三万人以上となり、人口全体の四％という日本の未来を先行する社会を実現している。

これらの急速な増加の主要な原因は一九九〇年の日本の法律の改定によって外国人労働者の在留資格が緩和されたことである。二〇世紀初頭にブラジルに移民した日本人の子孫が出稼ぎで来日するようになったが、数年で帰国を想定していた人々が法律の改定と母国の景気停滞の影響で定着するようになったことが影響している。

日本はユーラシア大陸の東端に位置する島国であったことも影響し、前半で紹介したように外国からの人口流入が少数の国家であった。しかし、人口が減少に転換した現在、移民政策も転換の是非を議論する時期にある。労働人口だけの問題であれば、進歩したロボットを社会に投入することによって問題の一部は解決できる。

しかしロボットが活躍する地域社会はSF小説の主題である。一九六八年に人口増加が環境破壊や食料不足など世界規模の問題になると指摘したP・エリックの著書『人口爆弾』が話題になった。しかし現在、世界では四〇ヶ国以上が人口減少に移行して爆弾は不発となり、国家単位では深刻な課題になっている。日本は解決を目指す先頭の国家になる役割がある。